

平成 23 年度
当別町地域公共交通活性化協議会
実績報告書

平成 24 年 3 月

当別町地域公共交通活性化協議会

《 目 次 》

1 . 会議の開催実績	1
2 . 当別ふれあいバス運行事業の概要	2
3 . 運行データの分析	4
4 . 運行コストと運行収入	1 8
5 . 夏休み冬休み子ども定期券の販売	2 1
6 . 当別町コミュニティバス運行事業のまとめ	2 3
7 . 活性化事業に関するまとめ	2 4
8 . 今後の課題	2 5

1. 会議の開催実績

(1) 協議会構成員

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	近藤 充徳
	当別町 福祉部長	高橋 通
	当別町教育委員会事務局 教育部長	小山 久夫
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	新保 信一
北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域振興部 地域政策課長	田辺 きよみ
札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会 専務理事	岩崎 友雄
関係する道路管理者	札幌開発建設部札幌道路事務所 計画課長	中井 健司
	空知総合振興局 札幌建設管理部 当別出張所長	渡辺 昭寿
	当別町 建設水道部長	滝本 隆志
関係する鉄道事業者	J R 石狩当別駅長	羽賀 雅史
当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	三浦 清志
	スウェーデンハウス株式会社	平 健生
	スウェーデンヒルズ管理センター長	
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース	加藤 啓一
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 会長	山下 義則
	当別町 P T A 連合会 会長	森 政徒
	当別町高齢者クラブ連合会 副会長	菊池 久
	当別町女性団体連絡協議会 理事	宮尾 道子
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	五十嵐 廣子
	当別町商工会 事務局長	土肥 繁義
	当別町社会福祉協議会 主任	藤原 徹

表 1-1 当別町地域公共交通活性化協議会委員名簿（平成 24 年 3 月 31 日現在）

(2) 会議の内容

平成 23 年度は 3 回の協議会を開催した。協議会では、地域公共交通総合連携計画に基づき策定された平成 23 年度計画事業の議論や進捗報告と、平成 24 年度事業計画及び予算の策定を行った。

また、新たな補助制度「地域公共交通確保維持改善事業」に基づくフィーダー計画の策定を行った。

回	開催日時	主な協議内容
第 1 回	平成 23 年 6 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年度活性化・再生総合事業実績報告について 平成 22 年度協議会決算及び監査報告について 役員の選出について 平成 23 年度予算の変更について 新たな補助事業の活用について
第 2 回	平成 23 年 9 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> 当別ふれあいバス平成 23 年度 8 月までの実績について 「環境まちづくりパートナーズ基本協定」の更新について 利用促進事業の実施について 西当別・あいの里線と金沢線の一部統合について 市街地循環線のダイヤ及び路線の変更について
第 3 回	平成 24 年 3 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 当別ふれあいバス平成 24 年 2 月までの実績について 平成 23 年度収支決算見込について 利用促進事業の実施結果について 平成 24 年度事業計画・予算案について 平成 23・24 年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

表 1-2 会議開催内容

2. 当別ふれあいバス運行事業の概要

(1) 運行の概要

これまで実施した過去5年間の実証運行実績を基に収支バランスがとれる運行体制とした。平成23年4月から本格運行を開始した。平成23年度は西当別・あいの里線と金沢線の一部統合、市街地循環線のダイヤ及び路線の変更を行った。

	一般	中学生・高校生	小学生・障がい者・介護人
運賃（一般路線）	200円		100円
回数券	2,000円（12枚綴り）		2,000円（24枚綴り）
応援券（1ヶ月）	4,000円	2,000円	
（3ヶ月）	10,000円	5,000円	
（6ヶ月）	16,000円	8,000円	
夏休み冬休み子ども定期券	小学生500円、中学生1,000円		

表2-1 利用料金一覧

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備 考
			往	復	
市街地循環線 (昇順コース)	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.0 km	6 便		土曜・日曜・ 祝日 運休
市街地循環線 (降順コース)	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.0 km	6 便		土曜・日曜・ 祝日 運休
西当別線	J R 石狩当別駅南口～ロイズふと美工場	12.0 km	6 回	6 回	
あいの里線	J R 石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	18.5 km	8 回	8 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
金沢線	J R 石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	11 回	13 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
みどり野線	J R 石狩当別駅南口～みどり野会館	9.0 km	2 回	2 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
青山線	J R 石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	6 回	6 回	
SuiSui ふれバ	J R あいの里公園駅～区域内運行 平成 22 年 11 月 30 日廃止	区域内 運行	0 回	1 回	金曜・土曜 のみ運行

表 2-2 運行路線一覧 (平成 23 年 4 月 1 日改正)

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備 考
			往	復	
市街地循環線 (昇順コース)	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	11.9 km	6 便		土曜・日曜・ 祝日 運休
市街地循環線 (降順コース)	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	12.0 km	6 便		土曜・日曜・ 祝日 運休
西当別線	J R 石狩当別駅南口～ロイズふと美工場	12.0 km	6 回	6 回	
あいの里金沢線	北海道医療大学 ～医療大学あいの里キャンパス	22.5 km	8 回	8 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
金沢線	J R 石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	5 回	5 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
みどり野線	J R 石狩当別駅南口～みどり野会館	9.0 km	2 回	2 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
青山線	J R 石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	6 回	6 回	

表 2-3 運行路線一覧 (平成 23 年 12 月 1 日改正)

3. 運行データの分析

(1) 全体利用者数の推移

総利用者数は135,815人と昨年を4,000人下回った。

4月利用者の減少と冬季の大雪による影響でダイヤが大きく乱れたことが要因と考えられる。

9月・10月の利用者が多くなっているのは、無料キャンペーンによるものと考えられる。北海道医療大学が長期休暇に入る8月及び3月は利用者が減少している。

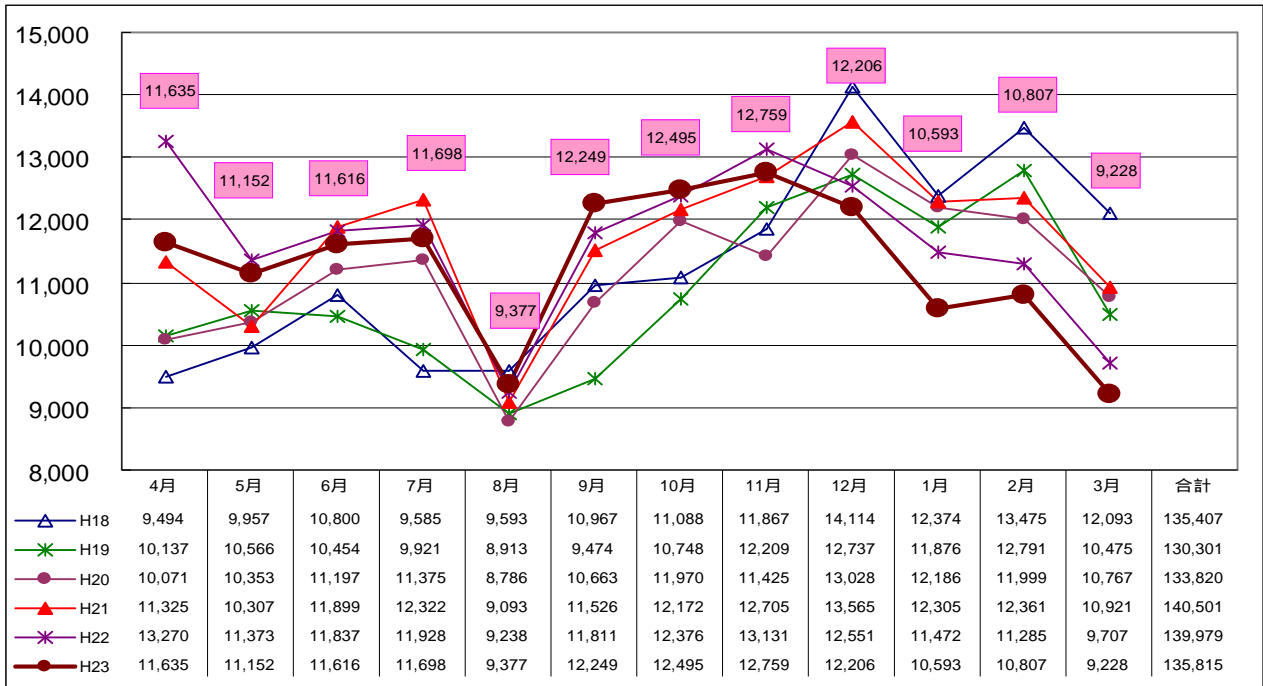


図 3-1 月別利用者推移

	平日										土曜・日曜・祝日				合計			
	鶴岡(乗車)	鶴岡(降車)	西当別線	あいの里線	金沢線	新西当別線	新金沢線	釧路川原線	あいの里線	青山線	小計	運行日数	西当別線	青山線	小計	運行日数	乗降乗数	運行日数
4月	145人	180人	1,729人	2,077人	4,980人				130人	740人	10,920人	25日	610人	84人	702人	10日	11,805人	30日
5月	151人	178人	1,719人	2,735人	4,501人				197人	781人	10,279人	19日	798人	170人	879人	12日	11,152人	31日
6月	171人	142人	1,879人	3,045人	4,326人				138人	796人	11,059人	22日	477人	108人	585人	8日	11,646人	30日
7月	188人	154人	1,611人	2,892人	3,141人				119人	704人	10,899人	20日	652人	147人	799人	11日	11,698人	31日
8月	231人	225人	1,549人	3,233人	2,501人				142人	547人	8,788人	23日	453人	106人	559人	8日	9,377人	31日
9月	291人	270人	1,870人	3,277人	3,068人				139人	608人	11,405人	20日	680人	164人	844人	10日	12,249人	30日
計	1,147人	1,100人	10,155人	16,008人	27,251人				775人	4,617人	63,054人	124日	3,559人	774人	4,333人	58日	67,727人	102日
平均	63人/日	58人/日	519人/日	747人/日	1,318人/日				63人/日	372人/日	5,008人/日	-	61.0人/日	131人/日	741人/日	-	370.1人/日	-
本数	6回/日	6回/日	12回/日	16回/日	24回/日				4回/日	12回/日	60回/日	-	22回/日	6回/日	28回/日	-	-	-
平均	18人/回	15人/回	68人/回	82人/回	92人/回				16人/回	31人/回	64人/回	-	28人/回	22人/回	26人/回	-	-	-
10月	257人	221人	1,784人	3,469人	4,885人	1,854人	1,688人	5,340人	131人	668人	11,500人	21日	791人	198人	989人	10日	12,485人	31日
11月	271人	236人	1,786人	3,121人	3,410人	1,788人	3,007人	5,379人	156人	877人	11,019人	20日	750人	190人	940人	10日	12,759人	30日
12月	263人	258人	2,300人	3,255人	4,464人	2,050人	2,479人	5,062人	192人	871人	11,260人	21日	788人	156人	944人	10日	12,206人	31日
1月	219人	228人	1,753人	3,281人	3,639人	1,753人	2,078人	4,464人	125人	625人	9,680人	19日	723人	190人	913人	11日	10,593人	30日
2月	291人	280人	1,862人	3,139人	3,816人	1,802人	1,905人	4,705人	149人	697人	10,189人	21日	490人	128人	618人	8日	10,807人	29日
3月	254人	282人	1,568人	3,297人	3,818人	1,698人	801人	4,175人	206人	881人	8,367人	21日	682人	198人	880人	10日	9,228人	31日
計	1,549人	1,404人	10,261人	16,258人	24,415人	10,061人	11,374人	29,169人	981人	5,405人	62,020人	122日	4,294人	1,061人	5,255人	58日	60,000人	102日
平均	126人/日	121人/日	683人/日	1,024人/日	1,663人/日	363人/日	403人/日	237人/日	7.6人/日	44.6人/日	5,008人/日	-	71.3人/日	10.0人/日	82.2人/日	-	372.1人/日	380.2人/日
本数	6回/日	6回/日	12回/日	16回/日	24回/日	12回/日	10回/日	16回/日	4回/日	12回/日	66回/日	-	22回/日	6回/日	28回/日	-	-	-
平均	21人/回	20人/回	57人/回	64人/回	83人/回	74人/回	103人/回	143人/回	2.0人/回	3.7人/回	7.7人/回	-	52人/回	3.0人/回	32人/回	-	-	-
合計	2,698人	2,594人	10,261人	16,258人	24,415人	10,061人	11,374人	29,169人	1,736人	10,102人	126,177人	247日	7,803人	1,935人	9,638人	118日	135,815人	136,863人
平均	109人/日	105人/日	465人/日	676人/日	1,020人/日	363人/日	403人/日	237人/日	7.6人/日	40.8人/日	5,008人/日	-	66.1人/日	21.0人/日	82.4人/日	-	372.1人/日	373.8人/日
本数	6回/日	6回/日	12回/日	16回/日	24回/日	12回/日	10回/日	16回/日	4回/日	12回/日	66回/日	-	22回/日	6回/日	28回/日	-	-	-
平均	1.8人/回	1.7人/回	5.1人/回	6.5人/回	8.7人/回	7.4人/回	10.3人/回	14.3人/回	1.8人/回	3.4人/回	7.7人/回	-	5.0人/回	3.7人/回	3.7人/回	-	-	-

表 3-1 月別利用者数一覧

(2) 平成23年度当別ふれあいバス事業の大雪等による運休・遅延等報告

大雪の影響により各路線において、運休や遅延が発生し、運行に大きな影響を与えた。

運行日別状況

月日		市街地循環線	みどり野青山線	あいの里金沢線	合計
12月5日	運休便数 (うち部分運休)	5	6	12 (3)	23 (3)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	1 (15分)	4 (1時間20分)	5
12月12日	運休便数 (うち部分運休)	1	0	0	1
	遅延便数 (最大遅延時間)	1 (30分)	0	4 (40分)	5
12月26日	運休便数 (うち部分運休)	8 (8)	0	0	8 (8)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	7 (50分)	7
1月6日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	0	0
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	2 (30分)	2
1月11日	運休便数 (うち部分運休)	4 (1)	6 (3)	16 (6)	26 (10)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	3 (30分)	2 (1時間20分)	5
1月12日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	0	0
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	1 (15分)	1
1月16日	運休便数 (うち部分運休)	11	8	5 (1)	24 (1)
	遅延便数 (最大遅延時間)	1 (30分)	4 (1時間)	9 (1時間10分)	14
1月17日	運休便数 (うち部分運休)	12(全便)	0	0	12
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
1月18日	運休便数 (うち部分運休)	12(全便)	0	0	12
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
1月19日	運休便数 (うち部分運休)	12(全便) (12)北回り	0	0	12 (12)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
2月8日	運休便数 (うち部分運休)	11	10	28 (8)	49 (8)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
2月9日	運休便数 (うち部分運休)	1 (1)	3 (3)	9 (7)	13 (11)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
2月21日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	7 (5)	7 (5)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	1 (1時間30分)	1
合計	運休便数 (うち部分運休)	77 (22)	33 (6)	77 (30)	187 (58)
	遅延便数 (最大遅延時間)	2 (30分)	8 (1時間)	30 (1時間30分)	40

表 3-2 運休・遅延一覧

(3) 市街地循環線の推移

平成23年度は4月から7月は各月100人以上の落ち込みがあり、過去最低の利用者となった。特にとうべつ整形外科の乗降者数の落ち込みが大きいことから、無料送迎サービスが大きく影響を与えていると考えられる。

8月から利用者が増加傾向にある。これは訪問型TFPの手法を用いたアンケートに一定の効果があったものと考えられる。

TFP：トラベル・フィードバック・プログラムは、モビリティ・マネジメントの技術で、ひとりひとりの外出行動を記録し、結果を診断するとともに公共交通の利用やかしいクルマの使い方を教え、実践してもらい、取り組み後の効果を知らせるもの

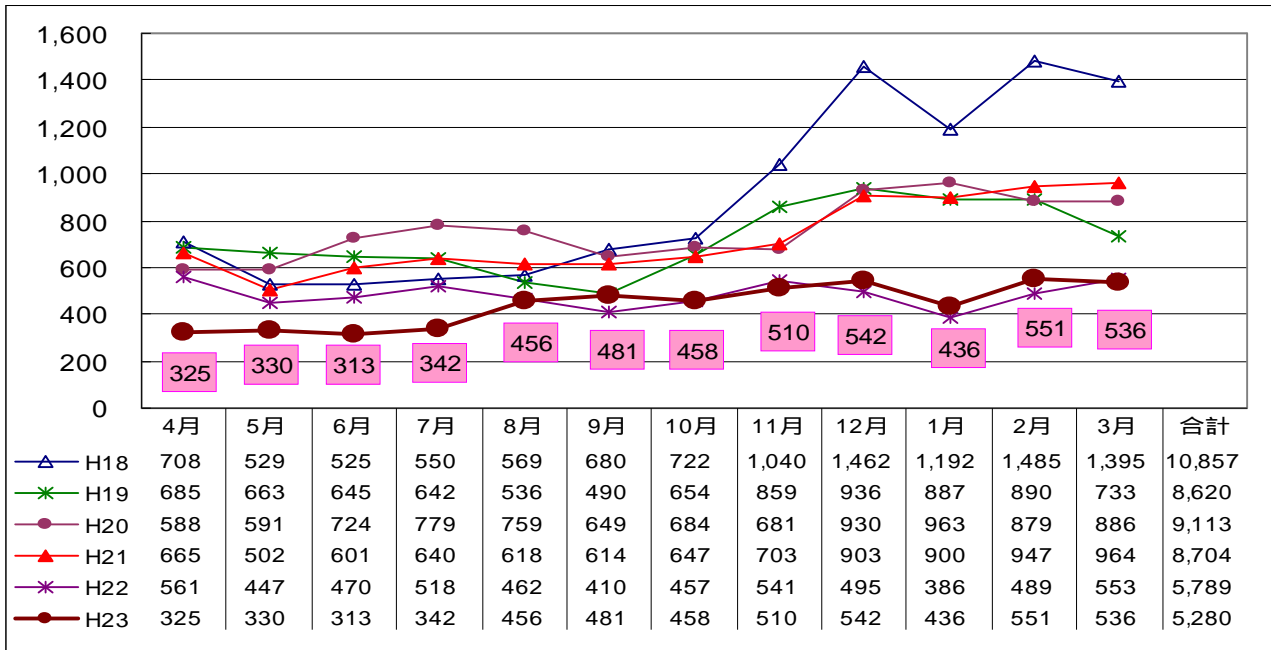
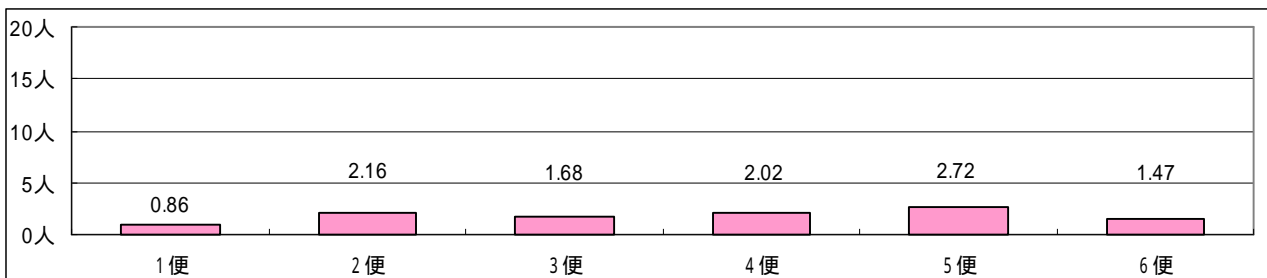
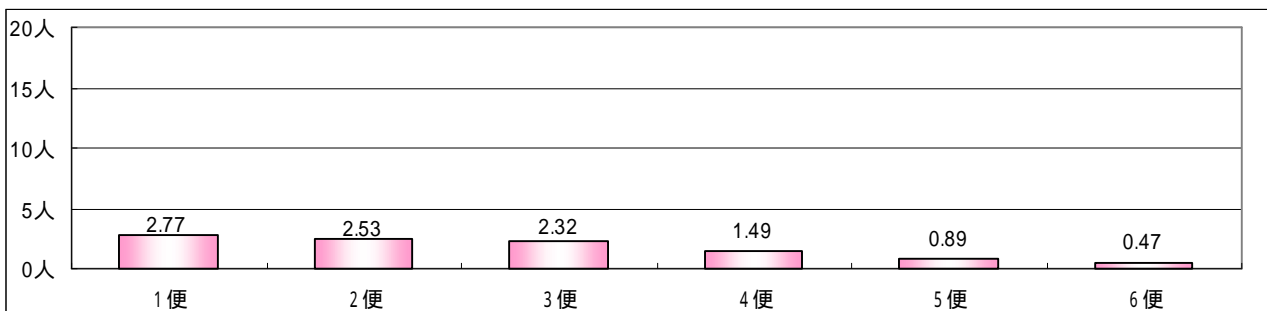


図 3-2 月別利用者推移

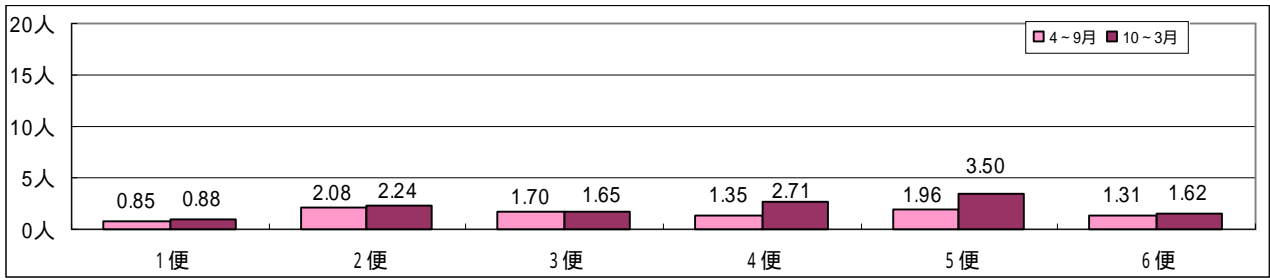


昇順

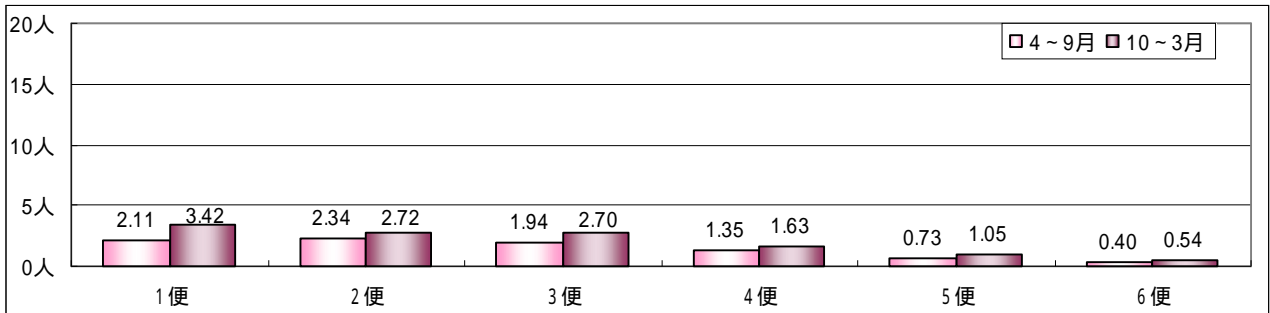


降順

図 3-3 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数

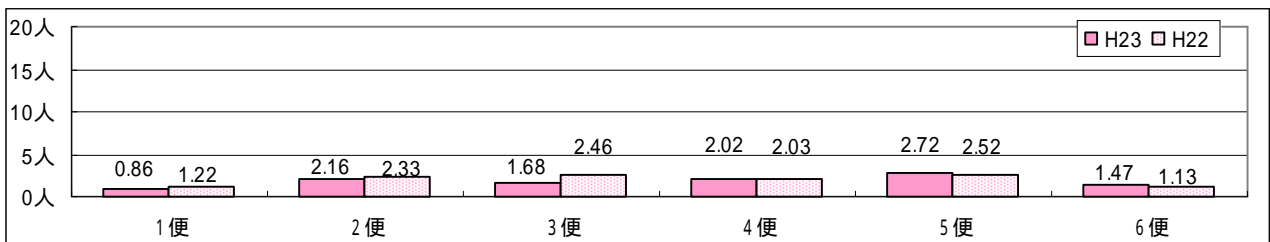


昇順

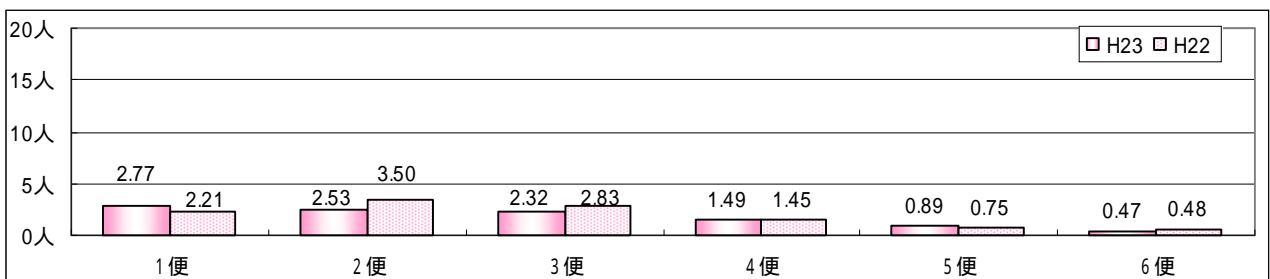


降順

図 3-4 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数 (夏季と冬季の比較)



昇順



降順

図 3-5 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数 (H23 と H22 の比較)

(4) あいの里金沢線(旧金沢線)の推移

過去最高の利用者数を記録した。これは、新入学生オリエンテーションで広報活動していることが要因と考えられる。

学生の利用が多いため長期休暇に入る8月、3月の利用者が顕著に少ない。

北海道医療大学行の第1便は歯科内科クリニックの受付時間と大学講義1講目の時間に合わせているため、利用者はどの便よりも多い。

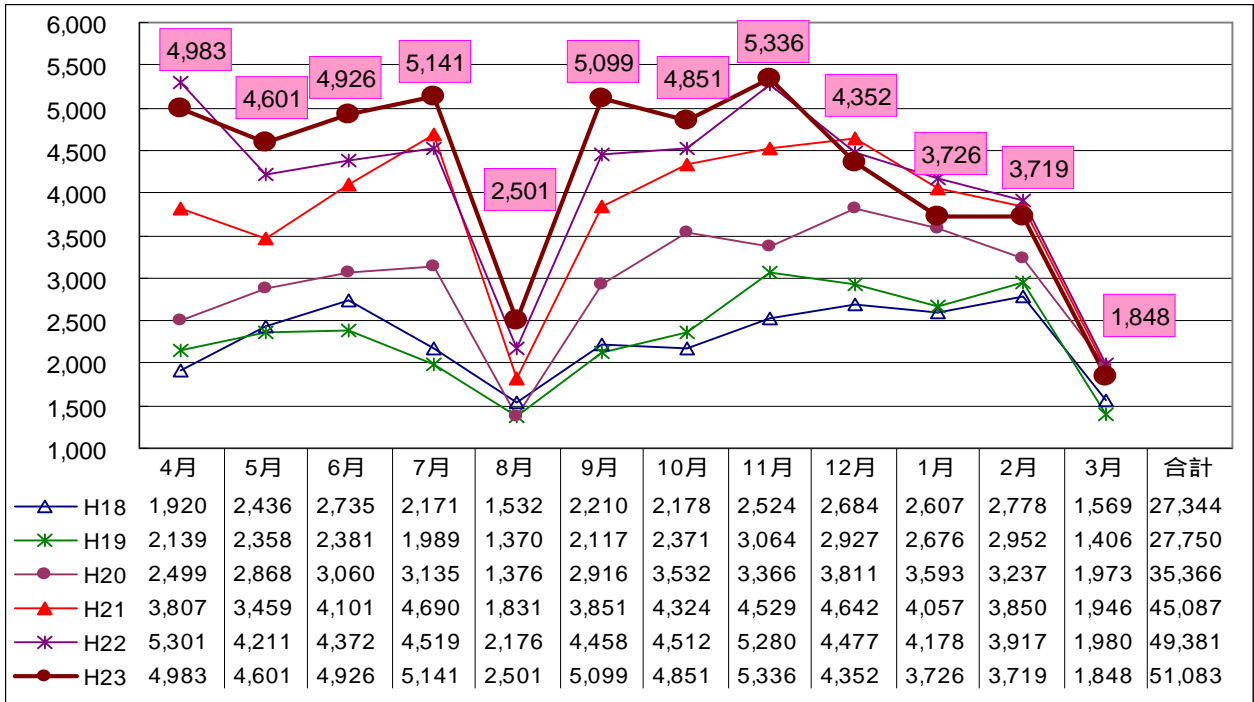
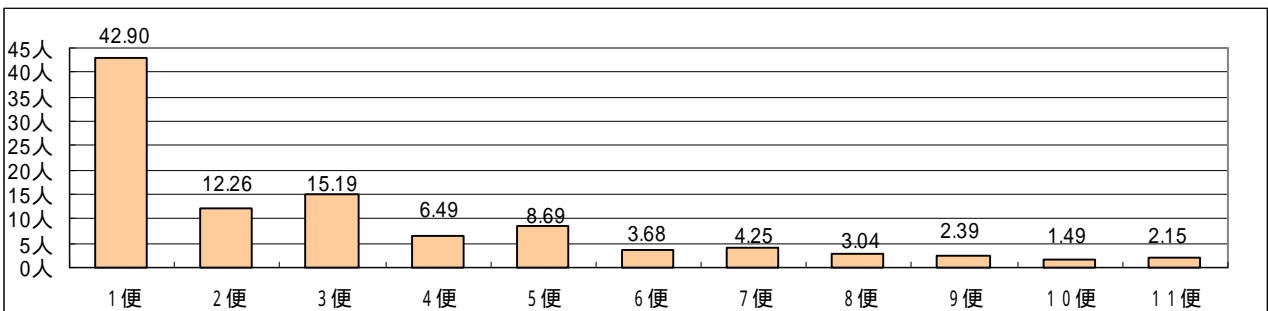
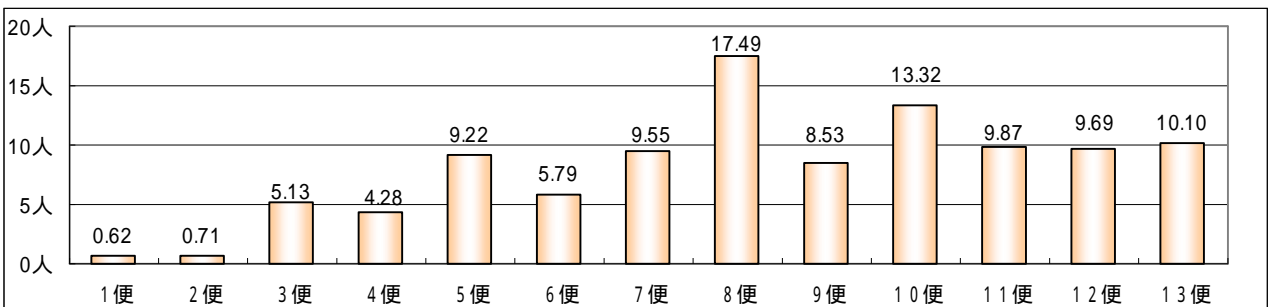


図 3-6 月別利用者推移

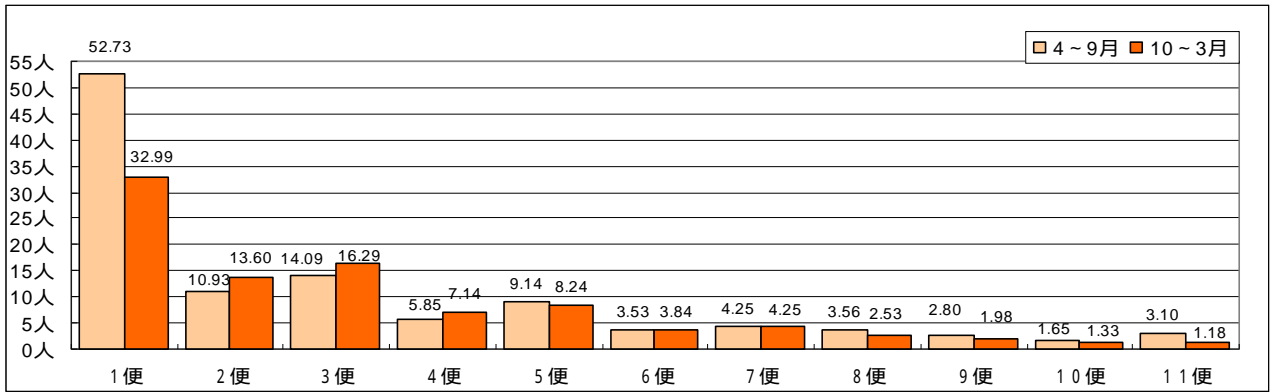


北海道医療大学行

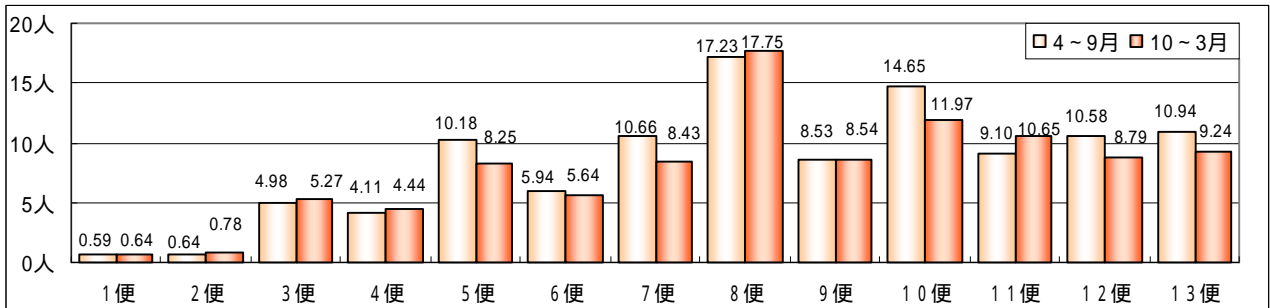


J R 当別駅南口行

図 3-7 1 便当たり平均利用者数

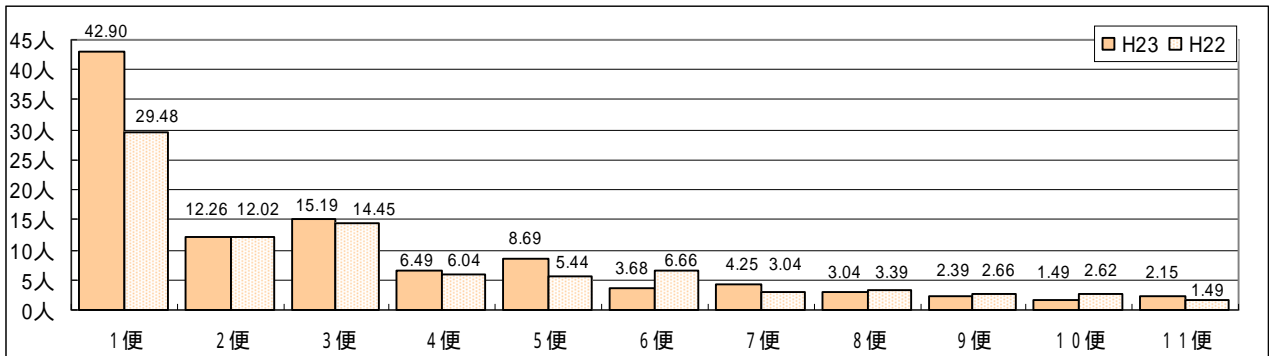


北海道医療大学行

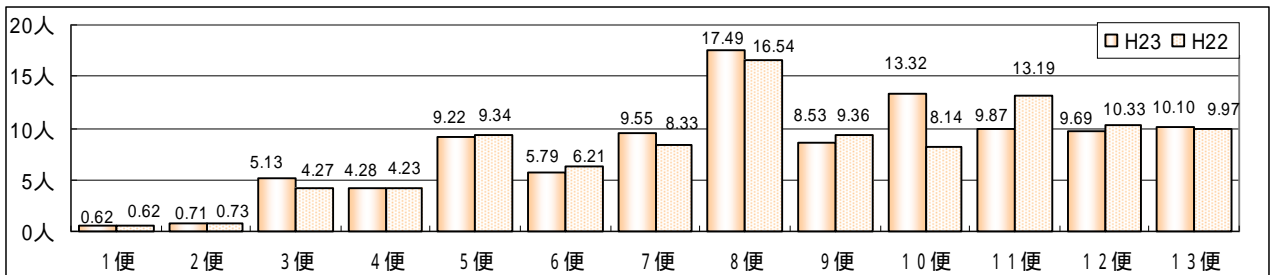


J R 当別駅南口行

図 3-8 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）



北海道医療大学行



J R 当別駅南口行

図 3-9 1 便当たり平均利用者数（H23 と H22 の比較）

(5) あいの里金沢線(旧西当別・あいの里線)の推移

平成 23 年度は過去最低の利用者数となった。平日利用者の減少が顕著であることから、通勤・通学者の利用が減少していると考えられる。また、冬季の大雪による影響でダイヤが大きく乱れ、12月から3月までの利用も減少している。

平日の太美駅・ロイズ・あいの里キャンパス行のうち、第1便の利用が多いのは、通勤通学者が多く、太美駅及びあいの里教育大駅まで利用するためと考えられる。

同第4便が多いのは、あいの里キャンパスまで行く最初の便のため、通学・通院利用者が多いと考えられる。

当別駅南口行き2便が多いのは、金沢線へ乗り継ぎし北海道医療大学行1便に乗車する通学・通院者が多いためと考えられる。

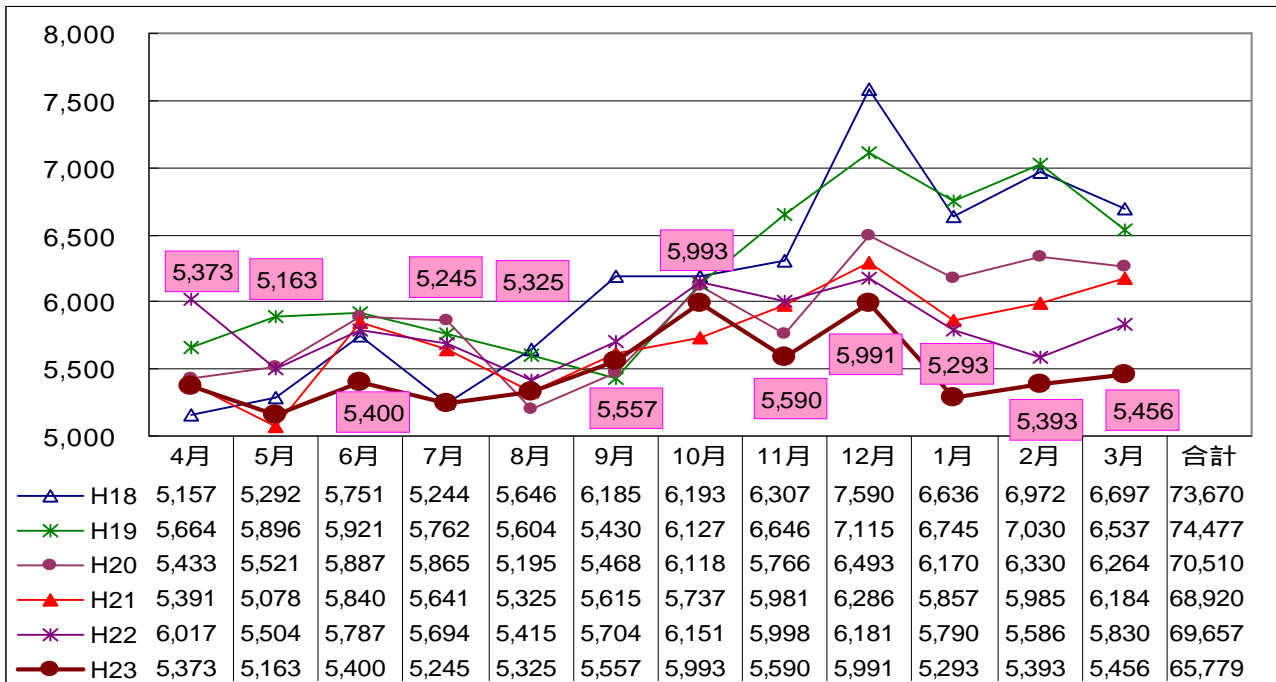
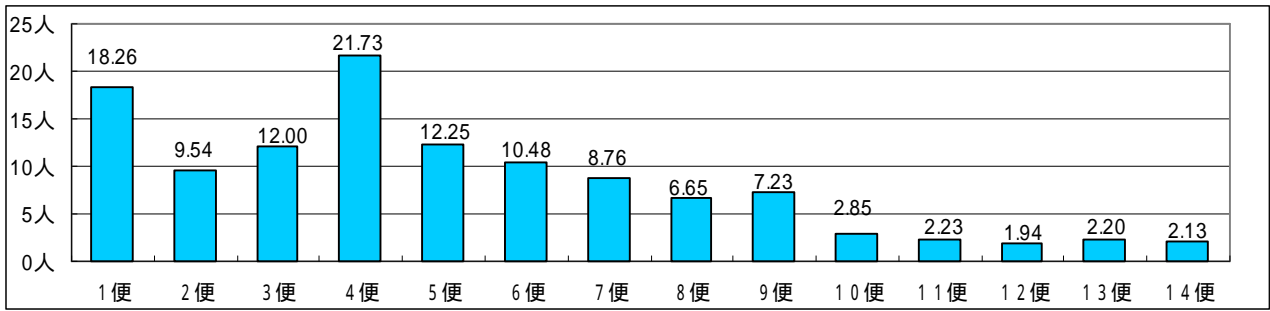
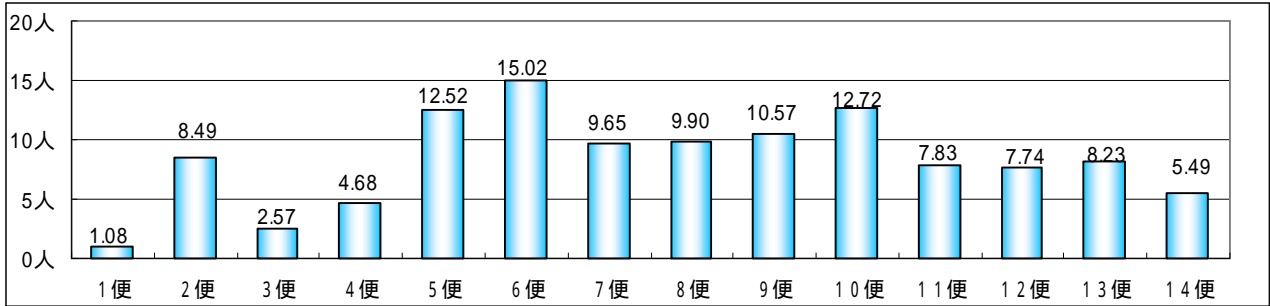


図 3-10 月別利用者推移

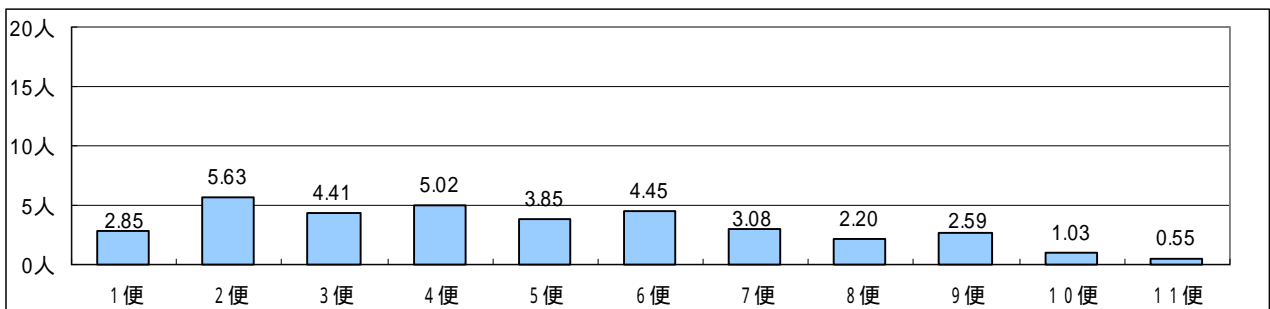


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

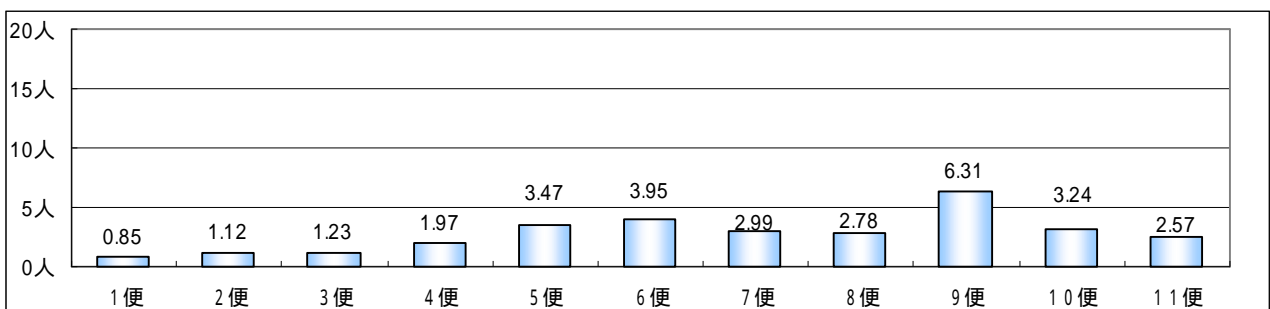


J R当別駅南口行

図 3-11 平日 1 便当たり平均利用者数

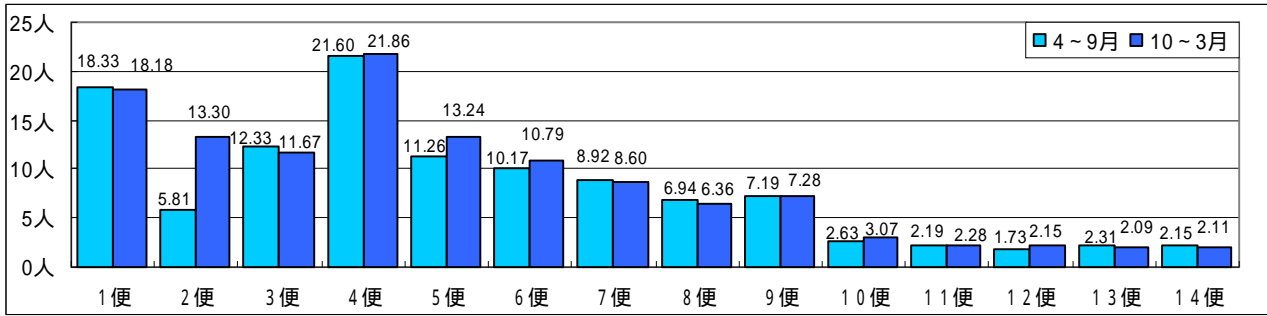


J R太美駅、ロイズふとみ工場行

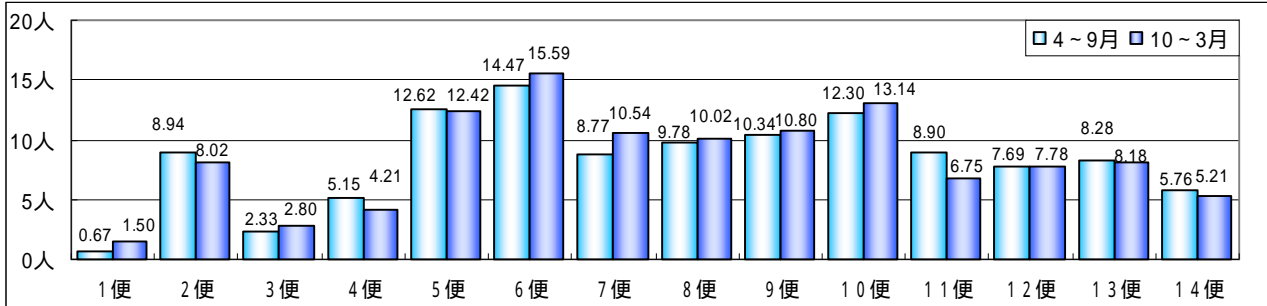


J R当別駅南口行

図 3-12 土日祝日 1 便当たり平均利用者数

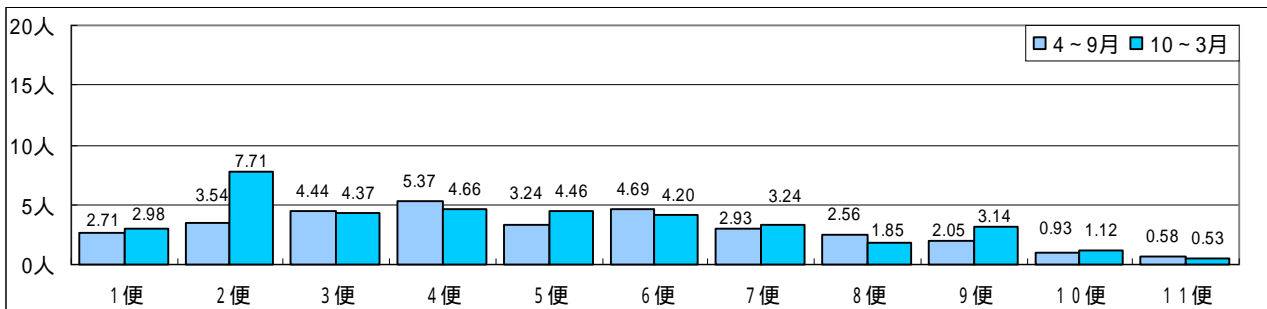


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

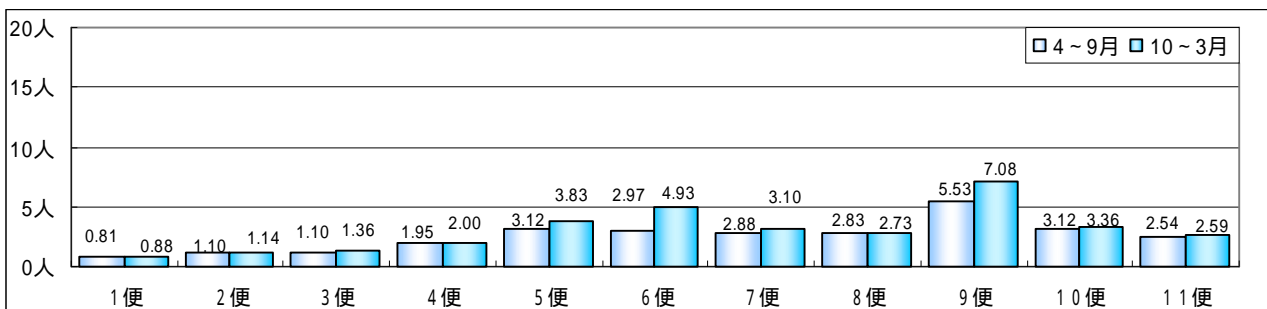


J R当別駅南口行

図 3-13 平日 1 便あたり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

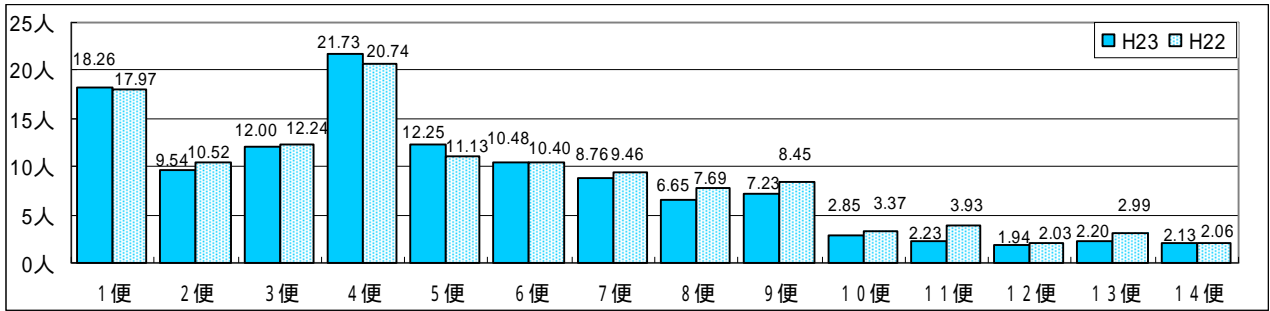


J R太美駅、ロイズふとみ工場行

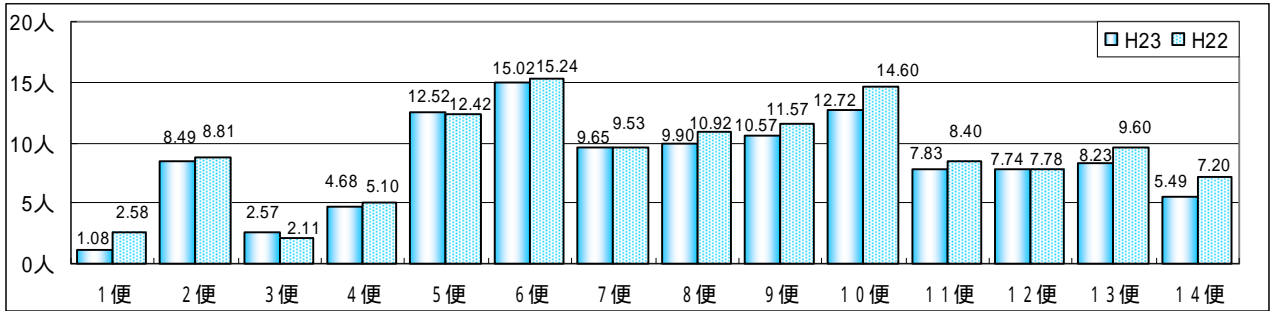


J R当別駅南口行

図 3-14 土日祝日 1 便あたり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

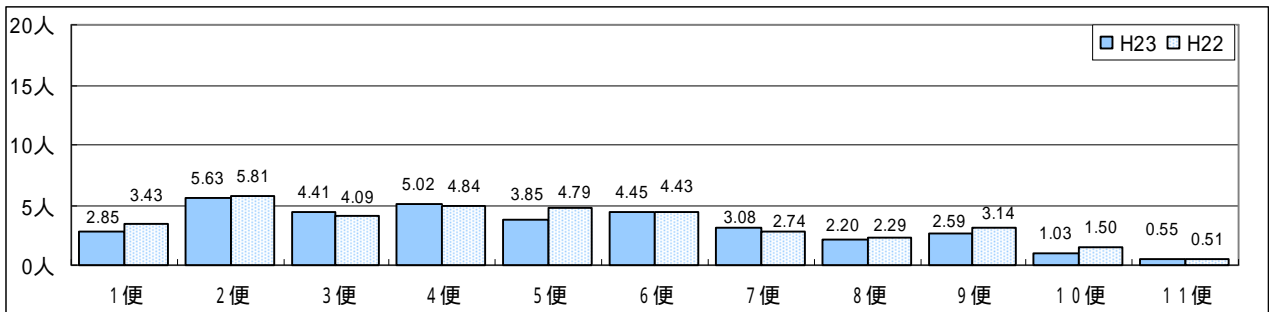


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

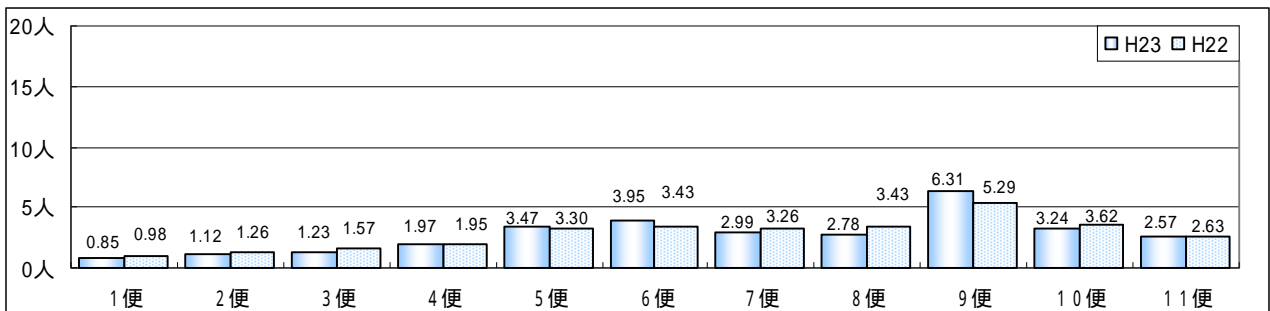


J R当別駅南口行

図 3-15 平日 1 便当たり平均利用者数 (H23 と H22 の比較)



J R太美駅、ロイズふとみ工場行



J R当別駅南口行

図 3-16 土日祝日 1 便当たり平均利用者数 (H23 と H22 の比較)

(6) みどり野・青山線の推移

平成 23 年は過去最低の利用者数となった。これはとうべつ整形外科の無料送迎サービスの影響が大きいと考えられる。

長期休暇のある 5 月、8 月、1 月の減少が見受けられないことから、通学者の減少が多いと想定される。

冬季は、市街地から遠いこともあり徒歩・自転車からバスへの転換があるものとする。当別駅南口行は午前中の利用が多く、みどり野・青山行は午後の利用が多い。

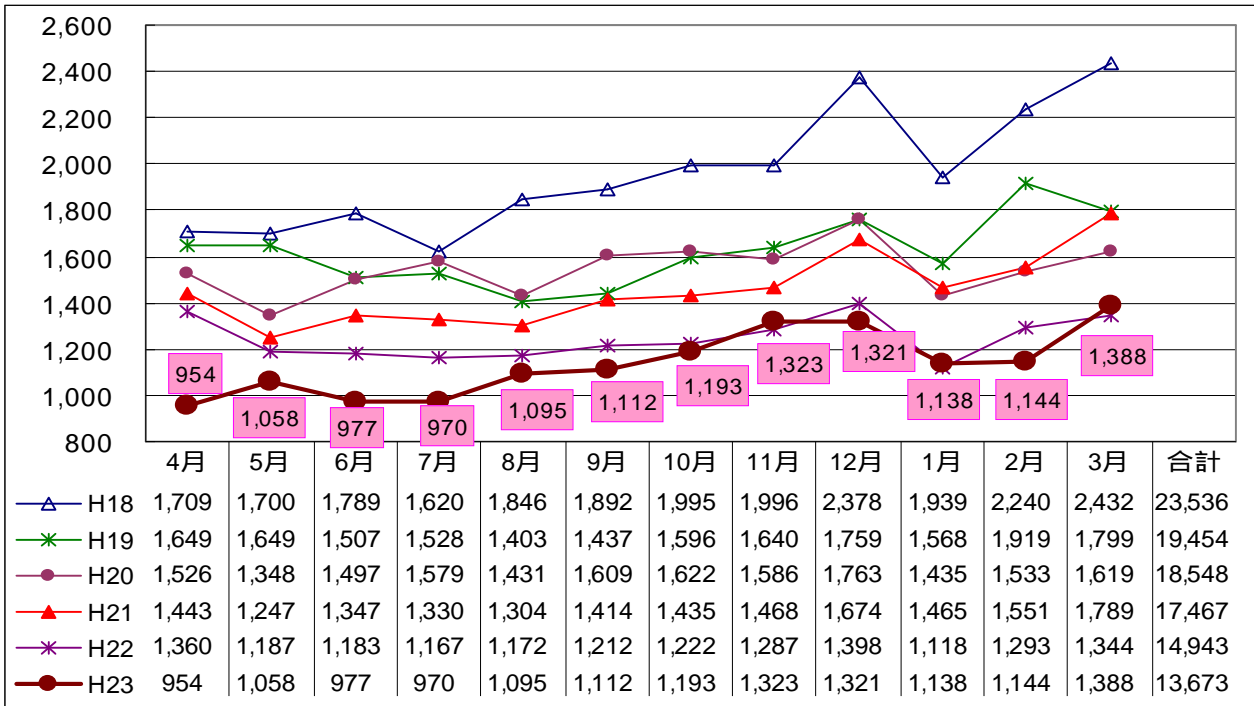
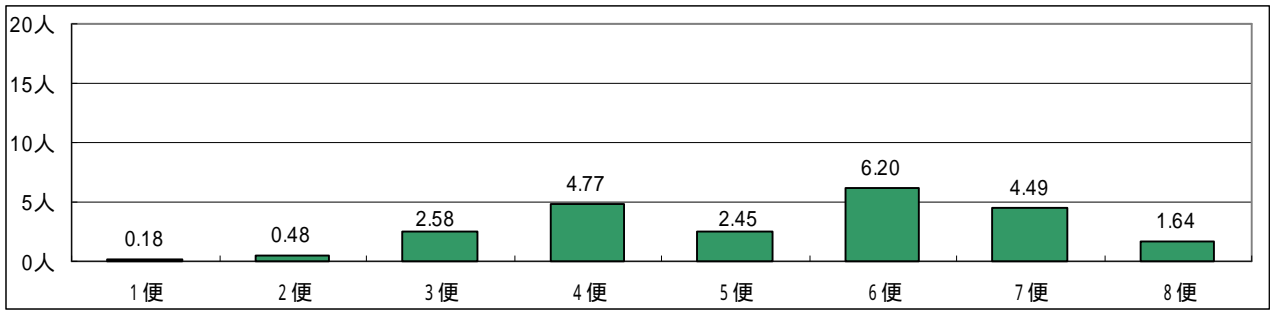
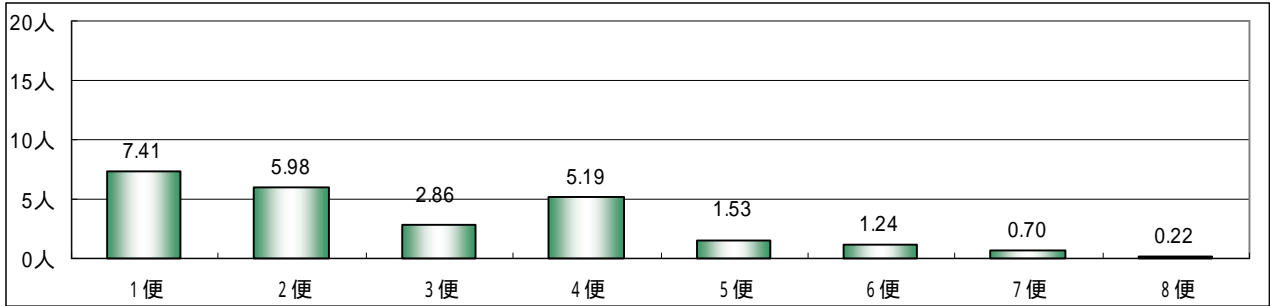


図 3-17 月別利用者推移

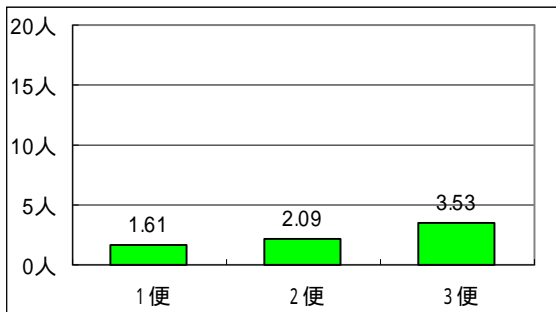


みどり野会館・青山会館行

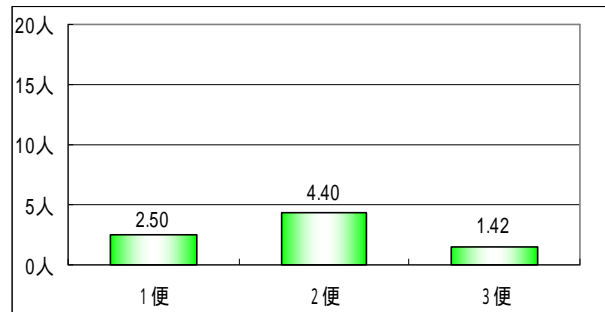


J R当別駅南口行

図 3-18 平日 1 便当たり平均利用者数

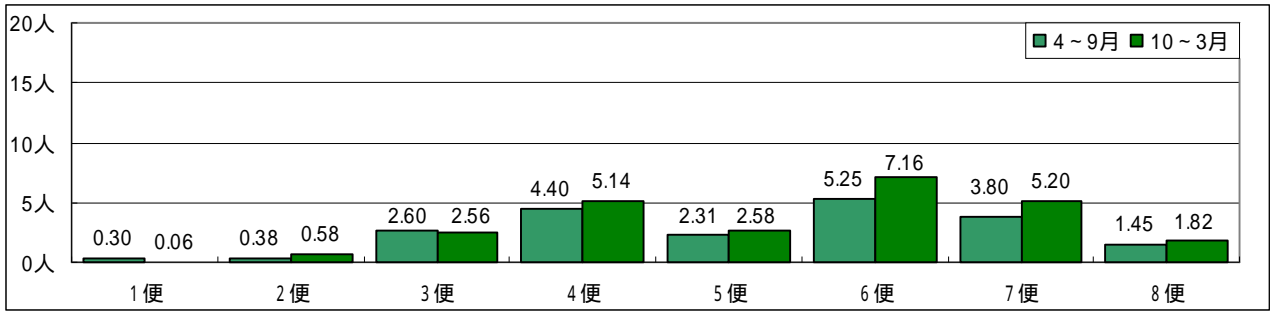


青山会館行

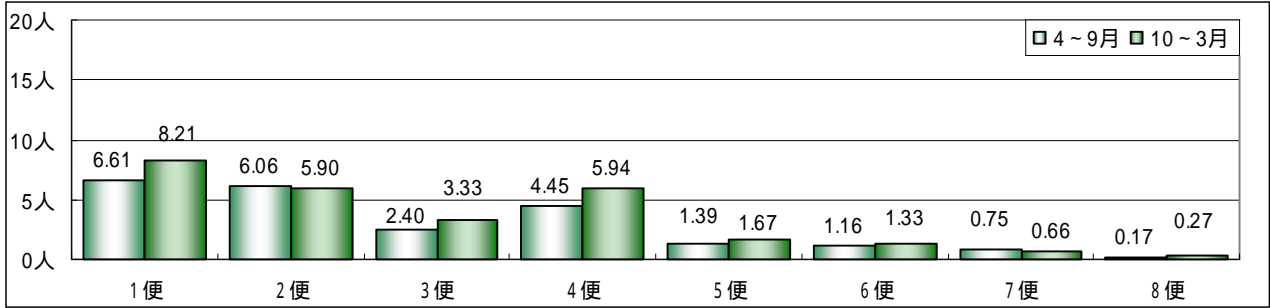


J R当別駅南口行

図 3-19 土日祝日 1 便当たり平均利用者数

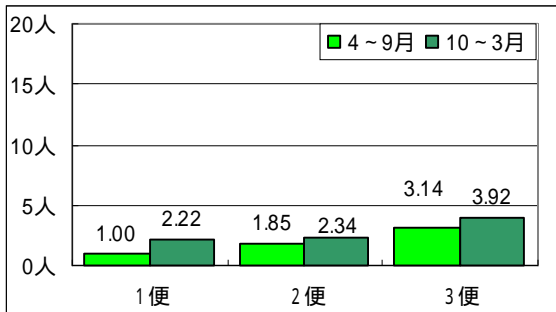


みどり野会館・青山会館行

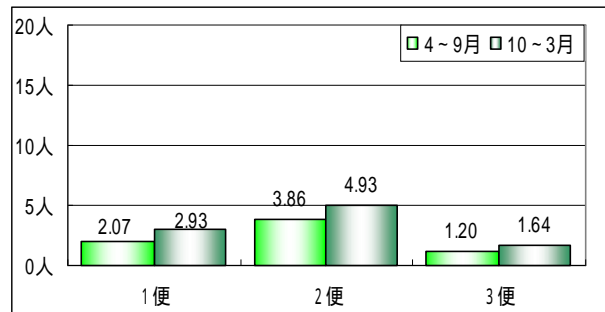


JR当別駅南口行

図3-20 平日1便あたり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

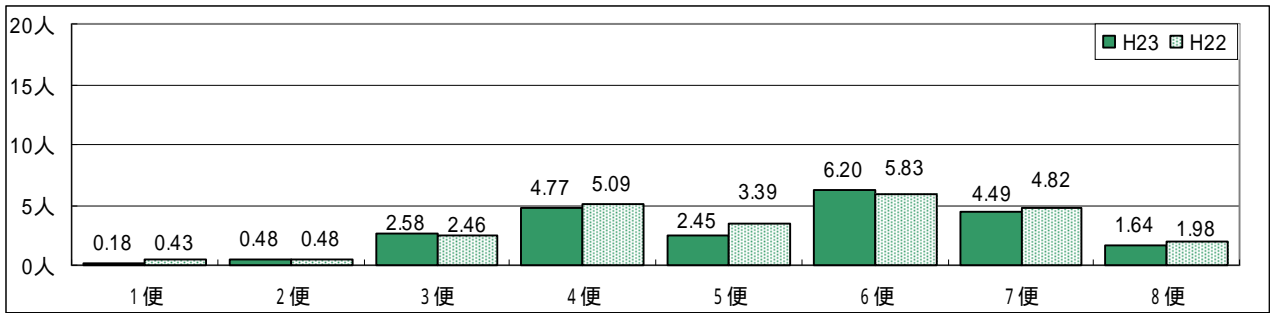


青山会館行

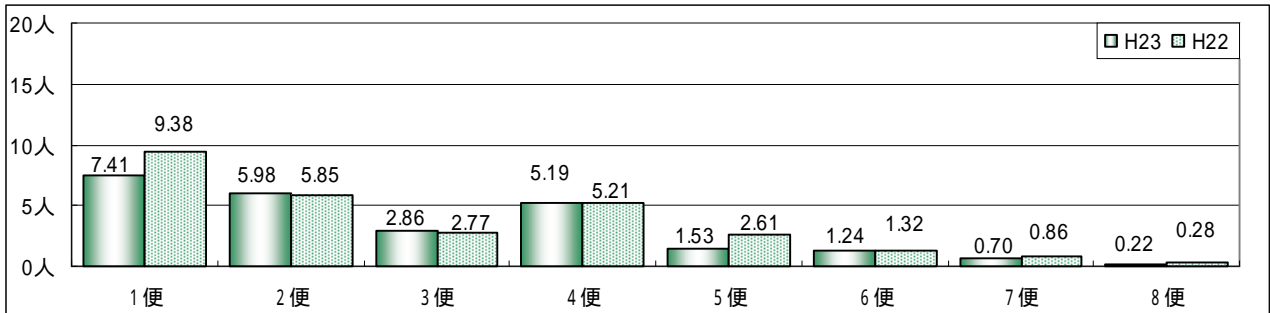


JR当別駅南口行

図3-21 土日祝日1便あたり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

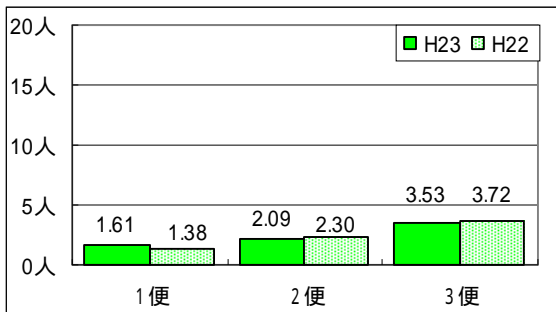


みどり野会館・青山会館行

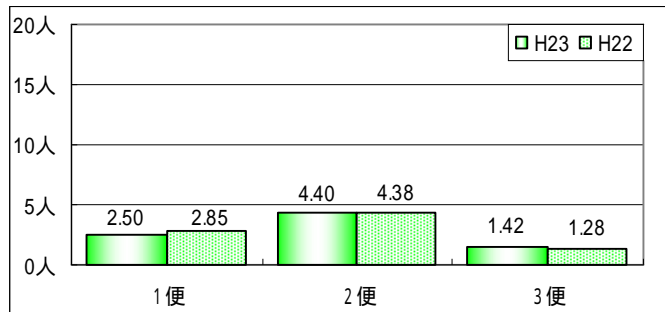


J R 当別駅南口行

図 3-22 平日 1 便当たり平均利用者数 (H23 と H22 の比較)



青山会館行



J R 当別駅南口行

図 3-23 土日祝日 1 便当たり平均利用者数 (H23 と H22 の比較)

4 . 運行コストと運行収入

(1) 運行コスト

平成 23 年度当別町コミュニティバスの運行コストは、年間 4,151 万円となり、その内訳は約 7 割 6 分が人件費、1 割強が車両費、残りをその他で占めている。

また、昨年に引き続きバイオディーゼル燃料の回収・精製の事業をふるさと雇用再生特別対策推進事業による委託で実施したことと、バイオディーゼル燃料の冬季使用量を増やしたことで、燃料費を抑えることができ、総事業費は昨年度より 5 0 0 万円ほど減額となった。

項目	金額	備考	構成比
人件費	31,773,600 円	運転手・事務員人件費	76.55%
車両費	4,655,200 円	バス借上料・メンテナンス・保険料	11.21%
燃料費	1,642,453 円	軽油・バイオディーゼル燃料	3.95%
バス停費	1,509,434 円	停留所借上料・維持管理費等	3.63%
その他諸経費	1,481,417 円	運行管理費・定期券作成・清掃費等	3.56%
消費税	444,425 円	人件費・保険料を除く	1.07%
支出(運行コスト)計	41,506,529 円		
1km あたり運行コスト	156.1 円/km		
1人あたり運行コスト	305.6 円/人		

表 4-1 平成 23 年度 当別町コミュニティバス運行コスト

(2) 運行収入等

運行収入は、現金による運賃収入と全路線乗り放題の応援券(定期券)回数券のほか、1 日乗車券の販売収入がある。応援券については、町内に 6 ヶ所の販売所を設け、販売枚数 1 枚につき 100 円の手数料を販売所に対して支払い、その差額が応援券収入となっている。

昨年と比較して、運賃収入と広告収入は前年を上回ったが、回数券販売額や応援券販売額が下回っている。収入合計でも昨年の実績を下回った。

	運行収入					広告収入	収入合計
	運賃収入	応援券販売額	回数券販売額	一日乗車券販売額	運行収入合計		
H23.4 月	282,000 円	1,025,700 円	255,100 円	7,100 円	1,562,800 円	0 円	1,562,800 円
5 月	295,300 円	46,900 円	231,300 円	7,300 円	573,500 円	0 円	573,500 円
6 月	283,500 円	72,400 円	225,000 円	5,000 円	580,900 円	0 円	580,900 円
7 月	275,600 円	128,400 円	193,800 円	5,800 円	597,800 円	239,475 円	837,275 円
8 月	334,200 円	88,500 円	232,500 円	4,500 円	655,200 円	0 円	655,200 円
9 月	418,500 円	242,100 円	153,500 円	3,500 円	814,100 円	0 円	814,100 円
10 月	461,300 円	611,700 円	208,100 円	2,100 円	1,281,100 円	18,000 円	1,299,100 円
11 月	344,300 円	189,100 円	292,300 円	2,300 円	825,700 円	0 円	825,700 円
12 月	425,000 円	143,200 円	285,000 円	3,000 円	853,200 円	0 円	853,200 円
H24.1 月	359,000 円	179,000 円	269,500 円	1,500 円	807,500 円	0 円	807,500 円
2 月	359,600 円	83,300 円	246,500 円	2,500 円	689,400 円	0 円	689,400 円
3 月	365,300 円	120,500 円	293,000 円	1,000 円	778,800 円	72,000 円	850,800 円
合計	4,203,600 円	2,930,800 円	2,885,600 円	45,600 円	10,020,000 円	329,475 円	10,349,475 円

表 4-2 収入一覧

販売店名	所在	電話番号	取扱時間
当別町商工会	錦町 1248	23-2447	9:00～17:00(平日のみ)
当別赤れんが6号(ふれあい倉庫)	錦町 294-4	27-6600	9:00～18:00(月曜定休)
当別町社会福祉協議会(高齢者クラブ連合会事務局)	西町 32-2 総合保健福祉センター内	22-2301	9:00～17:00(平日のみ)
(有)下段モータース	樺戸町 1055 番地	23-2630	9:00～18:00
スウェーデンヒルズ管理センター (スウェーデンハウス(株))	スウェーデンヒルズ V2-3-2	26-2348	9:00～18:00
(株)小島商店	太美町 1484	26-2410	8:00～21:00

表 4-3 応援券販売箇所一覧

	一 般				小中学生・高校生・障がい者・介護人						応援券 売上枚数 合計
	1ヶ月 (4,000円)	3ヶ月 (10,000円)	6ヶ月 (16,000円)	小計	1ヶ月 (2,000円)	3ヶ月 (5,000円)	6ヶ月 (8,000円)	限定小学生 (500円)	限定中学生 (1,000円)	小計	
4月	16枚	3枚	45枚	64枚	10枚	10枚	19枚	0枚	0枚	39枚	103枚
5月	6枚	1枚	0枚	7枚	3枚	0枚	1枚	0枚	0枚	4枚	11枚
6月	10枚	1枚	1枚	12枚	4枚	0枚	0枚	0枚	0枚	4枚	16枚
7月	13枚	2枚	0枚	15枚	6枚	3枚	2枚	13枚	12枚	36枚	51枚
8月	5枚	2枚	1枚	8枚	7枚	4枚	0枚	1枚	0枚	12枚	20枚
9月	6枚	1枚	10枚	17枚	7枚	1枚	4枚	0枚	0枚	12枚	29枚
10月	13枚	4枚	25枚	42枚	6枚	2枚	13枚	0枚	0枚	21枚	63枚
11月	13枚	4枚	3枚	20枚	15枚	3枚	1枚	0枚	0枚	19枚	39枚
12月	11枚	3枚	1枚	15枚	9枚	4枚	0枚	18枚	12枚	43枚	58枚
1月	11枚	1枚	4枚	16枚	18枚	4枚	1枚	0枚	1枚	24枚	40枚
2月	16枚	0枚	0枚	16枚	11枚	0枚	0枚	0枚	0枚	11枚	27枚
3月	11枚	1枚	2枚	14枚	7枚	3枚	1枚	0枚	0枚	11枚	25枚
合計	131枚	23枚	92枚	246枚	103枚	34枚	42枚	32枚	25枚	236枚	482枚

表 4-4 応援券販売枚数一覧

(3) 無料利用者

参加事業者が独自で行っていた輸送サービスを一元化し、「官民共同による運行」を実現させるために、従来のサービスを低下させないよう一定の条件において無料で利用することができる。

北海道医療大学の病院利用者は昨年同様で推移しているが、学生の利用が顕著に減少している。これは大学へ行くときはバスを利用するが、帰りは友人の車など他の交通機関等を利用しているものと考えられる。

参加事業者	条件	対象路線	対象者	利用方法(無料)
北海道医療大学	当別町金沢及び札幌市あいの里にある当該大学キャンパス	あいの里金沢線	当該大学の学生及び教職員 付属病院の患者	往路：診察券・学生証の提示 復路：無料チケットの交付
スウェーデンハウス	当別町スウェーデンヒルズ内限定の乗降	あいの里金沢線	一般住民	スウェーデンヒルズ内限定の乗降である事を運転手に伝える

表 4-5 従来のサービスによる無料対象者一覧

参加事業者	平成 23 年度 使用枚数	平成 22 年度 使用枚数	増減 (H23 H22)	(参考)平成 21 年度 使用枚数
北海道医療大学 (患者)	3,507 枚	3,507 枚	0 枚	3,734 枚
北海道医療大学 (学生)	23,065 枚	25,343 枚	2,278 枚	22,179 枚
合計	26,572 枚	28,850 枚	2,278 枚	28,796 枚

表 4-6 無料チケット使用枚数

5. 夏休み冬休み子ども定期券の販売

(1) 概要

昨年に引き続き小中学校向けモビリティ・マネジメント展開の一環として、学校の長期休暇にあわせて、格安の応援券の販売を行った。

利用概要

料金	小学生 500 円、中学生 1,000 円
利用期間	夏季：平成 23 年 7 月 23 日(土)～8 月 17 日(水) 冬季：平成 23 年 12 月 23 日(金・祝)～平成 24 年 1 月 16 日(月)
購入場所	ふれあいバス応援券販売所
利用方法	ふれあいバス応援券と同様

利用実績

夏季	小学生 14 枚、中学生 12 枚、合計 26 枚
冬季	小学生 18 枚、中学生 13 枚、合計 31 枚



図 5-1 夏休み子ども定期券



図 5-2 冬休み子ども定期券

(2) 広報

子ども定期券の販売に当たっては、周知を図るためチラシを作成し配布した。

広報概要

夏季	学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布（7月19日）
冬季	学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布（12月19日）



図 5-3 子ども定期券周知用チラシ

6 . 当別町コミュニティバス運行事業のまとめ

(1) 路線に関して

市街地循環線

今年度は4月から7月にかけて利用者が少なく過去最低の利用者数であった。これは平成22年度から開始された無料送迎サービスの影響が続いているものと考えられる。とうべつ整形外科での乗降者数が大きく減少していることと、ダイヤ調整のため、12月から「とうべつ整形外科」、「中央団地」のバス停を廃止したが、冬季の利用者は昨年度と比較して微増となっている。

また、冬季の大雪の影響で運休・遅延があったが、昨年と比較して利用者に大きく変化はなかった。

あいの里金沢線

平成23年10月から金沢線と西当別・あいの里線を統合し、事業を展開統合することで金沢あいの里間での乗り継ぎがなくなり、利便性が向上に努めた。

当別金沢間(旧金沢線)は今年度の実績が過去最大の利用者数であった。北海道医療大学の学生の利用者増が顕著であり、無料で利用できるバスへの転換が進んだと考えられる。特に歯科内科クリニックの受付時間と大学講義1講目に合わせている北海道医療大学行き1便の利用が一番多い。

北海道医療大学で行っている新入生オリエンテーションの中での広報活動の効果もあって昨年度に引き続き今年度も過去最高の利用者数となった。

当別あいの里間(旧西当別・あいの里線)は今年度の実績が過去最低の利用者数となった。冬季は大雪の影響でダイヤが乱れたため、利用者が減少したと考えられる。

第1便の利用者が多いのは、スウェーデンヒルズの住民がJR石狩太美駅までの移動手段として利用しているためである。

第4便が多いのは、あいの里キャンパスまで行く最初の便のため、通学・通院利用者が多い。

みどり野・青山線

今年度は過去最低の利用者数となった。昨年度と比較して、長期休暇のある5月、8月、1月の大きな減少が見受けられないことから、通学者の減少が多いと想定される。また、当別駅南口行の午前中の利用が減少していることから、通勤・通学者の利用が減少していると考えられる。

春季と冬季を比較して冬季の当別駅南口行第1便の利用者が増加しているのは、通勤・通学者が自転車などからバスへの転換があったからと考えられる。また、全便を比較して冬季が増加しているのは、市街地から遠いこともあり交通の足として利用者数が増加したと考えられる。

(2) 収入に関して

今年度は事業収入が1,035万円となり、運行経費に占める事業収入の割合が24.9%となった。昨年度と比較して、収入全体で98.9%と下回った。運賃収入は9月・10月に実施した無料キャンペーンの効果と12月の大雪によるJR運休等に伴う現金利用者増加のため、昨年度を上回ったが、収入全体が減少したのは、応援券と回数券の売上金額が減少したためである。特に応援券の売上金額は過去最低となった。

7. 利用促進事業に関するまとめ

(1) モビリティ・マネジメントの実施

利用者数が頭打ちになっている現状で、今後安定した収入を確保する為には新たな利用者の発掘のほか、長期に渡る利用促進策の実施が課題である。小中学生に対する将来を見越したモビリティ・マネジメントは、今後町内のバス交通を活性化させるために、きわめて重要な施策であり、今後も継続して行っていきたい。

小学生を対象とした環境と公共交通に関する授業は、引き続き学校と協議をし、「交通日記」による「事実情報提供法」の実践、「行動プラン法」の実践などの授業に取り組んだ。今後も継続して取り組んでいきたい。

大学生向けモビリティ・マネジメントとして、医療大学の新生オリエンテーション時にふれあいバスの説明を行った。継続して実施していることもあって、あいの里金沢線の旧金沢線区間については、年々利用者が増加している。

福祉出前講座に「大人向けかしこいクルマの使い方教室」や、「60歳からのかしこいクルマの使い方教室」を組み込んだことにより、高齢者や各種団体への利用促進を展開することができるようになった。今年度は高齢者クラブ等に6回教室を開催した。

そのほか幼児向け利用促進事業として、公共交通と環境に関する紙芝居を作成、町内の幼稚園・保育所のほか、子育てサークルなどに配布し活用していただいている。

住民向けモビリティ・マネジメントとして、市街地循環線沿線の地域住民とあいの里金沢線の旧西当別・あいの里線沿線の地域住民（太美町・太美スターライトのみ）に対し、訪問型TFPの手法を用いたアンケートを行った。一方的に送りつけるアンケートではなく自宅に訪問し、時刻表など公共交通に関する資料を提供しながら、コミュニケーションをとり、公共交通のメリットを伝えるので、事業開始後から利用者が増加していることから、一定の効果があつたと考える。その他「バスまつり」や「ふれあいバス運賃無料キャンペーン」など利用促進事業を実施し、ふれあいバスへの理解と認知度の向上を図った。また、ふれあいバス運賃無料キャンペーン中に「バスまつり」などのイベントを重ねることで、バスに乗ってイベントに参加するよう働きかけることができ、バス利用のきっかけづくりに取り組んだ。

今後もモビリティ・マネジメントを継続的に実施し、利用者の増加につなげたい。

(2) バスマつりの開催

ふれあいバスを中心とした公共交通利用を促すため、昨年度に引き続き第3回目を開催した。当日は天候が悪く同日開催の予定であった、「さわやか駅伝」が中止となる中、規模を縮小しての開催となった。普段目にすることができない、「まきバス」や「ファイターズ号」など様々なバスを集め試乗会を行ったほか、北海道運輸局の協力をいただき、「バスの乗り方教室」や「バリアフリー教室」も行った。

バスマつりの開催によりバスに興味や親しみをもってもらい、当別ふれあいバスに対する意識の変化を与え、利用者の増加につなげたい。

8 . 今後の課題

平成 24 年 6 月 1 日には J R 学園都市線の一部電化、10 月には完全電化、と J R のダイヤ改正に合わせたバスのダイヤを組むことが利用者の増加及び利便性の向上につながるため検討していきたい。

市街地循環線については、利用者は少ないが高齢者等にとっては重要な移動手段となるので、今後も維持できるよう努力していきたい。

あいの里金沢線の当別あいの里間（旧西当別・あいの里線）は主にスウェーデンヒルズの住民が太美駅までの区間を利用する人が多く、その他は北海道医療大学病院への通院のため利用する人が多い。電化完全実施に合わせて J R とのアクセスを調整し、利便性の向上に努めていきたい。

当別金沢間（旧金沢線）は、利用者が年々増加してきている。学生が多く、無料で乗降できるため収入には反映されていない。今後も学生数の増加が予想されるが、利用者の利便性を向上できるよう更に努力していきたい。

みどり野・青山線は、通勤・通学者の利用が減少してきている。地理的条件から自動車での移動も多くあると考えられる。利用者が少ないため、今後どのように維持していくかが課題である。

利用促進事業は、今後の利用者確保において大変重要なものと考えている。小学生向けのモビリティマネジメントは学校の積極的な協力をもらえるように、授業で使用できるコミュニケーションツールも確立されたため、今後も継続して実施したい。大学生や高齢者に対しても今年度実施した広報活動や出前講座を継続し、当別ふれあいバスの認知度を向上させたい。また、町内の幼稚園や保育所に配布した公共交通と環境に関する紙芝居を活用により、幼少期から公共交通に対する意識づけを行っていきたい。「バスまつり」については今年度で 3 回目となり住民にもにも認知されてきているが、かかる経費をどのように確保するかが今後継続して実施するうえでの課題である。

近年、利用者が減少傾向にある、今年度からスタートした新たな補助制度「地域公共交通確保維持改善事業」を活用し、これまで以上に利便性や運行の安定性を向上させ利用者を増やすことに努力していきたい。

また、安定した運行を継続させるため財源確保は重要なものであり、広告収入や新たな参加事業者の発掘にも努力したい。